

危機を振り返る

—りそな公的資金注入から20年に 思う—

りそなホールディングス
シニアアドバイザー

東 和 浩



1. はじめに

経済は一定の周期で変動すると言われる。コンドラチェフ・サイクルが典型だが、50年周期ということもあり、本当に周期的かを実感するのは難しい。

一方で、金融機関の危機は、案外たびたび経験することに驚くばかりである。

記憶にも新しい危機と言えば、15年前（2008年）に起きたリーマンショックと言ってよいだろう。

ところが、今年は想定し得ない方向から金融危機が訪れた。シリコンバレーバンクを含む複数の米銀破綻である。今回は、SNS時代を象徴するデジタル・バンク・ラン（デジタル時代の取付け）の脅威を見せつけられたような気がする。

日本では、今からちょうど20年前の2003年に「りそなショック」と呼ばれる危機が起きた。この危機は金融危機の発端というより、バブル崩壊から燃り続けていた日本の金融危機の「終わりの始まり」の象徴となった。

その歴史的意義は別として、私はその渦中にいた。その危機と再生を経験した者として「危機の後、何が変わったか」を振り返ることで、企